

| | |
|------------------|---|
| Title | 次号目次 |
| Sub Title | |
| Author | |
| Publisher | 慶應義塾経済学会 |
| Publication year | 1963 |
| Jtitle | 三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.56, No.10 (1963. 10) ,p.990(106)- |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | |
| Genre | |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19631001-0106 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

うな役割をはたし、どのような評価を下しうるのか、などをさらに統一的に解明するには、それらは資本の運動法則にもとづいて具現されるものであるから、隅谷三喜男氏が賃労働研究の方法論において主張することく、⁽²⁰⁾商品としての労働力を供給の側面からのみでなく、需要供給両側面から有機的に考察し、それらの理解に必要な労働市場の理論を確立して、その上になつて実証研究による中味のある研究を展開することが今後の課題であろうと思われる。

(19) 西岡孝男前掲書九八頁。

(20) 隅谷三喜男稿「賃労働の理論について」『経済学論集』二三巻一號。同著『日本賃労働史論』(東大出版会) ほか。なお氏原正治郎氏の論著も参照。

次号目次

論 説

労働者政策と社会政策……………中鉢正美
——藤林教授の社会政策論について——
独占・寡占下の価格設定と価格の運動(一)……………北原 勇
——独占価格研究第二篇——
東南アジア諸国における二重経済構造と
一九五〇年代の工業化の進展……………川島 楊子

資料・研究ノート

一八六四年から一八六六年に至る第一インター
ナショナルの総務委員会に於ける史料(一)……………飯 田 鼎
わが国製糸業の歴史的發展と
——戦前・戦後の構造変化(一)……………尾城 太郎 九
——製糸業の「体質改善」問題の歴史的背景——

書 評

デュービッド・ワイトマン著
『アジアにおける経済協力への歩み』……………深海 博 明
——国際連合アジア極東経済委員会——
新刊紹介

書 評

デイトリッヒ・アイヒホルツ著

『一八四八年の鉄道史における

ユンカーとブルジョアジー』

Dietrich Eichholtz: Junker und Bourgeoisie vor 1848 in der preussischen Eisenbahngeschichte (Deutsche Akademie der Wissenschaften zu Berlin, Schriften des Instituts für Geschichte, Reihe I: Allgemeine und Deutsche Geschichte Band 11.)

飯 田 鼎

ドイツ産業革命の研究は、最近に発表されたモテック等の業績⁽¹⁾が示すように、さまざまな視角からの分析がみられる。ここにとりあげたアイヒホルツの研究は、その題名のとおり、一八四八年の三月革命以前のドイツ産業資本の確立期において、鉄道資本によって代表される産業ブルジョアジーとこれに対立するユンカーとの矛盾、その利害対立の様相を克明に実証的に描き出した力作である。つぎのような内容から成っている。

序 論

第一章 プロイセン鉄道建設における一般的状态

書 評

第二章 鉄道建設および鉄道資本にたいするユンカーおよびユン

カーの絶対主義的国家

第三章 ユンカーおよびユンカー的・絶対主義的国家にたいする

鉄道建設の場合におけるブルジョアジーの前進について

第四章 ユンカー体制、鉄道資本および鉄道建設労働者

結 語

著者がその序文の冒頭において、「この研究は、特別の、三月革命以前においてはとくに重要な経済史の領域におけるユンカーとブルジョアジーとの間の階級関係の探求」であると指摘しているように一八四八年のドイツのブルジョア革命前夜の階級関係とその構造的分析であるが、同時にそれは、ドイツ産業資本確立期における鉄道資本の役割の重大性をも追求している。モリス・ドップもその著「資本主義発展の研究」のなかで指摘しているように、「鉄道というものは、おびただしく資本を吸収するという、資本主義にとってはおびただしい有利性をもっている⁽³⁾」という事実をはじめとして、鉄道網が、ドイツ産業資本の発展にとつてまことに不可欠の条件たる国内の統一市場の創出、原材料の輸送および労働力の移動を促進するというまさに革命的な影響をユンカー体制にあたえるところから、当然ユンカーはその封建的・絶対主義的性格を掘りくずす鉄道資本に対して、反動的政策をもって関わざるをえなかったのである。

さて、マルクスは「資本論」のなかで資本制生産における運輸および交通手段の意義について、つぎのようにのべている。「一産業